

こんにちは
教育委員です



発　行：今　金　町　教　育　委　員　の　会
〒049-4393　北海道瀬棚郡今金町字今金４８－１
TEL：0137-82-3488　【No.120】H25(2013).11.21
E－mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

檜山管内初の
北海道教育委員会移動教育委員会開催

檜山管内の江差町を会場に北海道教育委員会の移動教育委員会が１０月２３日（水）開催されました。会場となった江差町文化会館では一般傍聴も見守る中、１．平成２６年度北海道札幌市公立学校採用候補者の登録について、２．子どもの生活リズムを整えるリーフレットについて、３．いじめ防止に関する条例素案（案）についての審議や北海道の歴史と檜山管内の文化財、檜山管内の教育概要説明が行われました



　また、北海道教育委員会と檜山管内の教育委員会との意見交換が行われ、各町からは、教育委員長と教育長が出席し、「学力向上に向けた、学校・家庭・地域における取り組みについて」各教育長が説明しました。今金町は、平成２４年度から町ぐるみで取り組んでいる今金っ子育成プロジェクト「読書と作文のまち」ワーキングチームについてお話ししました。本町の取り組みに関心をいただいた鶴羽佳子教育委員（千葉





大学卒業後、北海道放送アナウンサー、独立後、NHK 札幌放送局のキャスター）が、１１／１９（火）開催の今金っ子育成プロジェクト子育て講演会の講師として「子どもの語彙力（ごいりょく：言葉の意味を知る力）・表現力の伸ばし方」と題してご講演頂きました。また、講演前の時間を活用頂き、今金小学校、道立今金高等養護学校、認定こども園いまかねを視察頂きました。翌日は本町の定例校長会議にも出席いただき、今金町の教育の現況にもふれて頂きました。鶴羽先生からは、町立の校長会議に道立の今金高等養護学校長や民間の認定こども園の施設長も出席するなど一体となり子ども達を育てる姿勢に高い評価をいただきました。





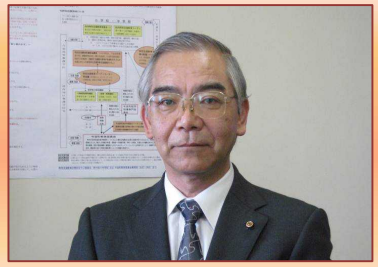
今金女性会役員が『看図』体験

　今金女性会が、役員会の冒頭を活用して今金町が推進している「読書と作文のまち」構想の中で学校現場でも取り組んでいる看図を体験しました。



　講師を努めたのは、今金小学校で特別支援教育支援員をしている原田紗穂里先生です。原田先生は、看図作文を実践指導している北海道教育大学札幌校の鹿内信善教授のゼミ出身で教育大在学中から本町の通学合宿などの体験学習のスタッフとして鹿内先生と共に指導いただている方です。当日は、今金町の景色写真を題材としてそれぞれが創造を膨らまして展開を創造する看図作文の世界を体験しました。女性会の皆さんは、冬期間や農閑期を活用しての学習が盛んなことから今後看図作文が学習プログラムとして加わることが期待されます。

委員リレー寄稿「歳時記」



今月は、橘教育委員長です。

今 年 の リ ン ゴ

ほぼ４年前に、このリンゴ樹の話を書いたことがありますが、この樹の「今年の成果」にしばしお付き合い下さい。

たった一本のリンゴの木ですが、庭に付けられてから３０年以上を経過しております。この木は幼いころから力強くまっすぐと伸び木肌のつやも良く同じ品種の中でも優秀な樹であり、実を付けだしてから今までの生涯でも最高の結果を出した年でもあります。品種は「姫神」と言い岩手県で新種登録されたものです。

この地、今金ではリンゴを食せるほどに育てている家は、まだ少ないことと思うが、２年ものの苗を植えると３，４年目には本格的に実を付け始め、その後は倍々ゲームのようにたくさんの実がつき、うまく管理すると５０年は実が採れると言われる。

この年の春は、積雪０を記録した日が４月１０日。庭の水仙が咲いた日は５月８日、山桜の開花が５月１６日と遅く、今金のこの年の５月の気候は過去３０年の平均資料によると低温日照不足で経過した。そのせいか、このリンゴの開花は早い年で５月中旬なのに今年は５月末となり、その後の生育が心配されたが、（添付している写真は、この木の芽吹き①開花期②の写真）６月２日に満開になり、近くになると大型の蜂「熊蜂」（通称クマバチ体長２㎝前後）を呼び寄せ始めた。花の最大直径は初めて計ってみたが、驚くことに７㎝ほどもあり、（②の写真花の中の黒く見えるのが熊蜂）この蜂の力を借りきっちりと授粉を完了した。気候に合わせることが出来る品種であり利口な樹だとおもう。リンゴの花の花言葉は、「選ばれた恋」と言う。うなずけるほどの素晴らしいものである。その後に摘花・摘果の作業がある。リンゴにつく病害虫も非常に多く、主だったものでも病気害虫ともに３０種を超えるそうだ。この木で確認したものでもキンモンホソガ・モモシンクイガ・アブラムシ類・ハダニ類、病気では赤星病・褐斑病・黒点病・黒星病・スス点病・さび病などがあり、虫と病気のデパートのようだ。これらの病害虫の被害を避けるには、時季を見計らいながらの防除が必要となる。病害虫と風害をクリアできた今年は数百個の実がたわわになり、色づくほどに楽しさが倍加し、見上げる光景（写真③）は、ほんとうに見事なものでうれしくなります。香しい芳香が出始め、蜜が入り始めると、もう収穫しても良いとのサインとなり、１０月１６日に採り始め、最終が１１月５日までとなった。この間、生食するものとジャムを作るものとで約４００個近く収穫し、毎晩のようにジャムを作る日が延べ１０日もあったかと思う。ようやくこのリンゴでジャムを作るレシピも習得し、この後は、葉が落ちるのを待ち、病菌と虫の越冬を避けるため、枝下の地面の草取りと古くなった木の荒皮を削り、最後にお礼肥を施す作業で、今年の作業が終わることになる。





よく観察し、適切な手立てをすると大きな成果を生み出します。

面白いものであり、興味のある方にはリンゴ育てをお勧めします。

全国身障者スポーツ大会入賞報告
活躍した奈良君、本井君教育長表敬訪問

１０／１２～１４の３日間に渡り開催された全国身障者スポーツ大会陸上競技のソフトボール投げに出場した奈良貴章君（養護学校卒光の里職業指導員）と本井　佑君（養護学校２年生）が入賞の報告（奈良君３位、本井君４位）に引率された養護学校の金子教諭、佐藤教頭先生と共に報告に来ていただきまた。本井君は北海道選手団の旗手を務めたことが大きな自信となったこと、奈良君は、職場や多くの皆さんのおかげで銅メダルを手にしたことへの感謝の気持ちを話してくれました。成長した二人の益々の活躍を願っています。

